

平成 2 8 年度

学校経営方針

目黒区立第八中学校
校長 飯 野 博 史

平成28年度 目黒区立第八中学校 学校経営方針

校長 飯野 博史

□ 教育目標

向上心に富み、誠実で思いやりのある人間性豊かな生徒の育成をめざして、下記の目標を設定する。

一、求めて学ぶ 二、考えて行う 一、自ら鍛える

□ はじめに（基本的な考え方）

- 教育の根本的な判断基準は「生徒」にある。
- 学校は組織体として、意図的、計画的、組織的に教育活動をする。

□ 目指す学校

全教職員が人権尊重の精神を基盤にしながら、創造性と主体性を発揮し、一人一人の生徒の自己実現が図られる学校づくりを目指す。その中で、従来のよき伝統を生かしながら、時代や社会の変化を敏感にとらえ、これまでの習慣にとらわれることなく、改善すべきところは全教職員が一丸となって取り組み、保護者・地域の方々の信託に応えていく。

学校経営方針 『信頼関係を基盤とした 心を育てる学校づくり』

— 『学校』『合校』『楽校』 —

平成27・28年度「東京都教育委員会人権尊重教育推進校」

◎人権教育を計画的、組織的に推進する

→ 28年度研究発表（1月31日）

◎日常のあらゆる場面を捉えて「心を育てる」

常に人権を意識した言動、環境づくりに心がける

道徳授業の充実を図り、道徳的実践力を高める

学級経営の充実を図る。人間関係づくりを重視する。

◎組織的な授業改善、授業への取り組みで効果を上げる

◎生活5項目の徹底

1. 時間を守ろう

2. 服装を整えよう

3. 言葉遣いに気をつけよう

4. 公共物を大切にしよう

5. 学習・生活のルールを守ろう → 授業規律の確立

◎教職員の目標 『一人一人を大切に』＝『親切 丁寧 誠実』

落ち着いた雰囲気の中、安心して学校生活が始まり、生活のリズムがあり、学級に居場所があり、授業に活気があり、行事や部活動等に打ち込める学校づくり

「当たり前のことが当たり前でできる学校」

＝生徒が期待をもって登校し、授業を受け、学力を身に付け、学校行事で盛り上がり、好きな部活動を行い、満足して自分の家に帰る。

「八中に誇りをもつ生徒を育てる。」「思いやり 優しさ 豊かな心の育成」



「確かな学力」

※ アクティブ・ラーニング、オリンピック・パラリンピック教育、特別支援教室事業など、新たな教育課題に積極的に取り組む。

1 『学校』…学校は学ぶところ（人間関係、勉強）

○生徒同士、生徒と教職員との信頼関係を築く。よりよい人間関係について学ぶ。

【日常的な関わりの重視】

◇日常のあらゆる場面において生徒同士、生徒と教職員とのふれあいを大切にし、相互尊重の精神を育てる。＝「心を育てる」「心を耕す」指導の工夫・充実を図る。

◇通常の学級とE組との交流を深め、障害に対する理解や思いやりの心を培う。

【道徳授業の充実】

◇道徳授業の充実＝とくに「主として他の人との関わりに関すること」を重点に授業を計画的に行う。発達段階を踏まえた指導に心がけ、内容の充実と35時間実施を目指す。学活等への振り替えをしない。望ましい評価の仕方について検討する。道徳教育、道徳授業に力を入れると学級が落ち着き、結果として学力は向上する。

○基礎的・基本的な学力の定着を図り、確かな学力を身につけさせる

【学習意欲の向上】

◇日頃からの指導法の工夫、授業改善、他の授業から謙虚に学ぶ

（楽しく分かる授業に努め、基礎・基本の定着を図る。アクティブ・ラーニング、学習形態の工夫、課題解決的な学習の設定、電子黒板・コンピュータによる指導、学校図書館の活用等新たな指導に取り組む。少人数授業の実施。放課後学習教室、土曜補習教室、日常的な補習によるきめ細やかな指導）

◇学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れる＝「学習カード（振り返りシート）」等の活用。授業の初めに「ねらい」を明確に提示する。計画的な板書を工夫する。振り返りの時間を確保する。

◇学習の基礎である「ことば」の力をつけるよう、読書活動の推進をはじめ、すべての教科で「聴く・伝える・考える」といった言語活動を意識的に行う。

◇サマースクール（5日間）＝積極的に声かけをする。

イングリッシュ・サマースクールの実施

◇総合的な学習の時間、体験学習との連携（調べ学習、課題解決的な学習、グループ学習）

◇校内研修会の充実 実践的な研修、学習指導要領の理解

◇区の学力調査（平成28年4月14日実施）の結果の活用

結果の分析と授業改善プランの作成、確実な実施と検証・改善

◇学習指導員による放課後学習教室、土曜補習教室の実施＝定期考査前後、3検定へのチャレンジ

【学習習慣の確立】

◇授業規律の確立（チャイム着席は教員の姿勢から 始業と同時に授業スタート）

◇基本的な授業の進め方についての共通理解と実践（授業マニュアルの作成）

◇小学校との連携を深める。（交流授業の実施や指導法の交流）

◇学習の遅れがちな生徒には、根気強く、個別に指導する。

【授業時数の確保等】

◇週案簿の活用、授業時数の記録。安易な授業カットはしない。

◇各教科等の年間指導計画・年間評価計画に基づき、系統性・発展性ある授業を展開する。

◇評価と指導の一体化を図り、より一層精度の高い評価・評定を実現する。

◇学習指導員、ICT支援指導員、学校図書館支援員の活用を図る。

2 『合校』…学校は力を合わせるどころ（学校・家庭・地域、教職員）

○学校行事や諸活動を通して、生徒のよさを最大限発揮させる

【行事・生徒会活動等の充実】

◇学校行事（運動会、学習発表会、区連合行事、宿泊行事等）や諸活動（生徒会活動、部活動、ボランティア・奉仕活動等）を通して、生徒のよさや可能性を最大限発揮させる。＝自主・自律の心情・態度を育てる。

◇連帯意識、愛校心を育てる。行事や委員会活動、部活動等で他学年との交流を図る。

【教職員の意思疎通・連携】

◇生徒指導での対応を統一し、報告・連絡・相談を密にする。（学級、学年等で差がないようにする）企画会、生活指導部会の機能の活用

例：服装等の指導、定期考査の受け方、給食指導、学級活動、生徒指導等

◇副担任が積極的に学級経営に関わる。担任の仕事の増大←副担任の適切な補助。

◇不登校生徒、情緒障害生徒等、配慮を要する生徒の指導は、校内委員会を中心に全校体制で対応する。

◇評価・評定、通知表等についてチェック機能を確立させる。読み合わせ等の確実な励行。

◇朝の読書の充実（全教員で対応する。一緒に読書する。）

◇朝の校門指導…担任、副担任の役割分担

◇給食指導の徹底（全員で指導・準備、栄養士の教室巡回）

◇学校環境の美化に努め、校内整備を日常的に行う。

「環境は人をつくる」人権教育の視点で教室環境を整備する

こんな職場にしていきましょう

①明るく、活気がある。教職員の笑い声が溢れている。教職員が仲良く、互いにそれぞれの役割、力を出して取り組んでいる。互いにフォローし合う。率直に意見の出し合える職場。

②生徒のよい面を見だし、日頃からの教職員の会話の中にも出てくる職場。

「〇〇君が頑張っているよ。」「〇〇さんが、こんな前向きな発言をしていましたよ。」

③すぐに生徒や保護者のせいにはしない。まず、自分の指導に問題がなかったか考える。

④組織で対応する。報告・連絡・相談・協議の徹底。個人プレーよりチームプレーで。

【保護者理解と連携・協力、地域との連携】

◇保護者に対して、日常の細やかな対応に努める。まず話を聞く。受容と共感
＝「親切」「丁寧」「誠実」な対応

◇問題行動等への素速い対応、組織的な対応、誠実な対応。指導過程の報告と協力要請。

◇保護者・地域の方と話し合う場を大切にする。学年保護者会、PTA役員会、PTA各委員会、学校評議員会、地域との会合等。外部団体、人材を積極的に活用する。

◇生徒に地域行事・奉仕活動への参加を推奨する。

◇学校だより、学年だより、ホームページ等で情報を発信する。特に、ホームページについては、定期的に更新する。

◇教育アンケートを保護者・地域、生徒に実施する。一部その結果を公表するとともに、校内でも分析して、次年度の教育課程編成に生かす。

3 『楽校』…学校は楽しいところ（安全・安心、きまりを守る＝本当の楽しさ）

○一人一人に居場所がある学校をつくる

【生徒理解】

- ◇明るく元気に「あいさつ」を交わし合う学校を目指す。まずは教師から実践
- ◇「分かる授業」「楽しい授業」を展開する。授業時間、休み時間、給食・清掃活動、部活動等あらゆる場面でかかわりを積極的にもつ。
- ◇日常的な教育相談の実施、カウンセリングマインドを身に付ける。
- ◇スクールカウンセラーを活用し、生徒理解・生徒指導について研修を深める。
- ◇言語環境を整備する（差別する言葉・配慮のない言葉は禁止）、教室環境の整備

【いじめの早期発見・対応】

- ◇日常の観察をきめ細かく行い、気になることは学年、学校全体で情報を共有する。
「いじめのサイン」を見逃さない。
- ◇「悩みアンケート」、「いじめアンケート」等を計画的に実施し、教育相談を行う。
- ◇「いじめ対策委員会」の設置、定期的に開催する。
- ◇「第八中学校いじめ防止基本方針」を策定し、保護者、地域へ周知徹底する。

【学級経営の充実】

- ◇学級経営について研修を深める。構成的グループエンカウンター等を実施し、学級のよりよい人間関係を築く。

【安全・安心】

- ◇防災教育の充実…避難訓練、安全指導の計画的な実施により、安全確保の態度や能力を養う。地震発生時の対応について徹底を図る。地域との連携体制を築く。
- ◇事故、けが、事件等が発生したときの対応と連絡（授業、部活動、校外等で発生した場合、連絡を確実にする。初期対応の大切さ。日頃からの危機対応）
その後も、配慮ある心配りを大切にする。
※首から上のけがは、必ず医師の判断を求める。
- ◇不審者対応 正面玄関電子錠等の学校安全施設や備品の活用、教職員全員で来校者への声かけの徹底、警察への協力依頼
- ◇セーフティ教室（交通安全、薬物乱用防止、情報モラル等）の実施。情報モラルについての指導＝道徳授業でICT指導員の活用。

【小・中の連携】

- ◇互いの学校文化の違いを理解し合う。
- ◇体験授業、部活動体験などを計画的に実施する。
- ◇「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」の開催。
- ◇子ども育成プランに沿って計画的に連携を図る。
- ◇入学時の接続時の連携を重視する。
- ◇発達段階を理解した道徳授業を連携して実施する。

【その他】

体験活動の充実、東京オリンピック・パラリンピック、特別支援教室開設に向けて

子供を育てる魔法の言葉掛け

「まかせる」…自己決定の場を設ける 達成感・成就感を味わわせ、自信をもたせる

授業の中で主体的な態度を育む

行事、学級での当番・係活動、生徒会活動、部活動などで主体的な活動を支援する。

※ 少し離れたところから生徒を見守り、指導・評価する。放任ではない。

「ほめる」…自己存在感・自己有用感を高める

肯定的な評価をする

ボランティア活動など小さな善行を認め励ます。

※ アンテナを高く情報交換を密にし、生徒の活躍を見逃さず「ほめる」

「うけとめる」…共感的な人間関係を深める

何でも話せる雰囲気づくり 生徒理解 日常的な教育相談の重視

厳しい指導（父親の心）と優しい指導（母親の心）のバランス

※ 信頼関係を築く。保護者からの訴えにもまず耳を傾ける。

「まかせる」「ほめる」「うけとめる」言葉掛けを大切にしていきましょう。